



2021 年度事業報告書

特定非営利活動法人パノラマ

2021 年度事業を振り返って

怒涛のような 2021 年度を振り返るのは容易なことではありません。しかし「**横浜北部エリアでのシームレスな自立支援の実現**」を目標に掲げた点を中心に、初心を忘れることのないよう、しっかりと振り返って行きたいと思います。

「シームレスな支援の実現」とは、現在、メインの活動である高校生支援と若者支援に加え、その前後である①小中学生への支援の実現。②40 歳以上のひきこもり者の支援を実現することでした。

①については、青葉区寄り添い型生活支援事業「.5 てんご」を受託することができました。これは、青葉区内の養育困難なご家庭の小中学生の放課後の居場所事業になります。今年 1 月から準備を開始し、3 月から可愛らしい小学生の受け入れを開始しています。また、②については中央ろうきんの助成金を活用し、自主事業として 40 歳以上のひきこもり者の方へのオンライン会話サービス「ブリッチ」を開始しました。まだ利用者はいませんが、40 歳以上を支援対象とすることを法人として宣言したことにより、様々な動きが出てきています。

このように、スタッフたちの健闘により、なんとか有言実行を果たすことができましたが、新規事業の立ち上げには、人が増えてないのに仕事がぎゅっと増える時期があり、心的にも身体的にも、もっとも労力がかかるので、2021 年度の怒涛の原因はほぼここに 있습니다。スタッフたちが本当に根気強く、思いを持って頑張ってくれました。

しかし、冷静になって考えてみると北部エリアの人口は 4 区で約 103 万人。これに対してパノラマのスタッフは 20 名弱……。シームレスな支援なんてできっこないです。ちょっと大風呂敷を広げすぎました。政治家みたいな嘘をついてしまい、大変申し訳ありませんでした。

そもそも、なんでこんな大それたことを言い出したのか、ちょっと言い訳させて下さい。対人援助をしていると、パノラマのアクション・ポリシーである「出会った責任を果たす」ことができない瞬間がやっぱりあるんです（さらに根深いところには「そもそも出会えてないじゃん問題」というのもあります）。普通に暮らしている人には見えな、でも当事者の人たちにはばっちり見えている深い溝のようなものが、私たちとクライアントとの間にはあります。深い溝の崖の淵に佇むクライアントに、「勇気出して飛び越えて来い！」なんて言えませんし、「今からそっちに行くよ！」と言える、私たちが渡れる橋もないんです。

見て見ぬふりをして、先に進むことのできない性分の私たちは、次第に無力感という名のストレスに苛まれるようになっていきます。ですので言ってしまったんです。「横浜北部エリアでのシームレスな自立支援の実現」なんて、政治家みたいなことを。

でも、細く頼りない吊り橋がなんとかこのように架かりました。何人が渡れるかわからないような吊り橋ですが、未知のクライアントたちに、この橋を渡ってもらいたいと願っていますし、迎えに行きたいと思います。その成果をでっかく発信し、自分たちのようなモデルが他の地域にも根差すことに貢献していきたいです。いつか、大ボラが本当になるように、虚勢を張りながら背伸びして、2021年度もスタッフ一同力を合わせて頑張りました。

NPO 法人パノラマ
理事長 石井正宏



2022年度のパノラマ・メンバー

2021 年度事業一覧

| | |
|--------------------------------|---------|
| 1. 子ども・学校支援事業部 | |
| (1) 青葉区寄り添い型生活支援「.5 てんご」(1月から) | 青葉区委託事業 |
| (2) 校内居場所カフェ事業 | 自主事業 |
| (3) ボランティアさん養成講座事業 | 自主事業 |
| (4) 校内個別相談事業 | 自主事業 |
| (5) 入学前支援事業 | 自主事業 |
| (6) 中退者・卒業生支援 | 自主事業 |
| 2. サードプレイス提供事業 | |
| (1) 居場所居酒屋「汽水」事業 | 自主事業 |
| 3. 若年者就労支援事業 | |
| (1) 有給職業体験「バイターン」事業 | 自主事業 |
| 4. 若者自立支援事業 | |
| (1) よこはま北部ユースプラザ事業 | 横浜市補助事業 |
| 5. 中高年ひきこもり支援事業 | |
| (1) ブリッチ | 自主事業 |
| 6. 啓発事業 | |
| (1) 校内居場所カフェ・スタッフ養成講座事業 | 自主事業 |
| (2) 各種広報事業 | 自主事業 |

2021 年度事業報告

1. 子ども・学校支援事業

(1) .5 てんご：青葉区内の要保護児童対策地域協議会（要対協）等に見守れている養育困難世帯の小学生と中学生を対象とした放課後の居場所事業（送迎あり）。学習習慣及び生活習慣を身につけることを事業目標としている。早期支援の実現により、子どもたちが深刻なダメージを負わずに済むセーフティネットとなることを目指す。また、当法人としては田奈高校との連携により中高接続支援の実現を目指したい。

支援実績

| | 2021 年度 (3/28~) | 2022 年度 | 2023 年度 |
|-----------|-------------------|---------|---------|
| 見学者数 | 保護者 2 名 児童 1 名 | | |
| 利用児童数 | 2 名 | | |
| 利用回数 (述べ) | 3 回 | | |

.5 てんご振り返り

青葉区寄り添い型支援事業 .5(てんご)は、2022 年 1 月からスタートしたパノラマの新規委託事業である。事業所を探し、一からすべてを始めること、そして高校生以下の子どもたちを受け入れる事業はパノラマにとっても新たな挑戦である。

1 月～3 月は、児童の受け入れに向け、事業場所の選定やスタッフの新規採用を行い、研修や会議を実施しながらどのような居場所を作るのか、新規スタッフのチームビルディングも大切にしながら準備を行った。

3 月末には児童の受け入れも開始し、利用児童が定着をするなど、.5 (てんご) のアットホームな雰囲気が子どもたちにとっても親戚の家に行っているような居心地の良い雰囲気になっているのではないかと感じる。

2022 年 4 月からは送迎が開始し、児童の利用が本格化する中で、様々な課題も出てくるのが想定される。区や他区の寄り添い型生活支援事業とも連携をしながら、子どもたちを中心に置いた、パノラマらしい事業を実施していきたいと思う。(小川)



マスコット・キャラクターのてんごちゃん

(2) 校内居場所カフェ：高校内に居場所カフェを開き、スタッフや多様なロールモデルであるボランティアさんと、日常会話から信頼貯金を貯めつつ、将来の糧となるヒト・モノ・コトの文化資本を高校生に提供する。中退や進路未決定の予防にとどまらず、将来的な社会関係資本への接続から経済資本の獲得を見据えた事業。

連携団体：一般社団法人お寺の未来（おてらおやつクラブ）、フードバンク各団体 他

コロナによる影響：BORDER CAFÉ は通常通りのカフェ運営が概ね開催できたが、ぴっかりカフェは4月、9月、1月～3月が中止となってしまった。

校内居場所カフェの振り返り

本年度もコロナの影響を受けた1年となり、すでに自粛モードがデフォルトとなってしまったような変な感覚となっている。同時に当たり前を揺さぶられるような感覚も味わい、何が正解なのかがわからなくなってきてしまっている。

特に印象的だったことは、飲食なしで開催したぴっかりカフェのクリスマス・パーティーである。例年では、ボランティアさん数十名が集まり、クリームシチューなどを作り、運び、非常に大掛かりなパーティーだったが、2021年12月のパーティーは、とてもこじんまりとしたものとなった。

生徒は集まるのか？という心配をよそに、50名以上の生徒が集まり、1年を締め括る最高のパーティーとなった。その前兆はあった。女子生徒がチラシをiPadを使い描いてくれたり、マスター石井がギターを教えてきた生徒が、ビビりながらもライブに出ると宣言したりなどなど。コロナにより、様々なイベントが中止になり、みんな思い出作りに必死なのだとは途中で気がついた。そんな思いの詰まったパーティーに飲食は不要で、みんなステージの出し物にかぶりつきだった。そして、オンラインで予約制にしたフードパントリーも50人分があっという間になくなった。

その翌日のBORDER CAFÉではお腹に貯まるスープと、お菓子やジュースを出した。一部の生徒しかライブを聴かず、後ろの方でスマホを弄りながらスープを飲んでいる生徒たちが目立った。何が正解なのかわからなくなってしまった。正直、まだ整理がつかないまま、日常を徐々に取り戻しているが、数年後、この“揺さぶり”は言語化され、自分たちのしていることを揺るぎないものにしていくのではないだろうか？今は、そんな漠然とした感覚でした今を捉え切れていない。（石井）

2021 年度実績 () 内は前年度の実績

| カフェ名/実施校 | 開催数 | 参加生徒数 | ボランティア参加 |
|---------------------------|----------------|-------------------------------------|------------------|
| ぴっかりカフェ 神奈川県立田奈高校 | 14 回 (11 回) | 280 名/平均 20 名 (537 名/平均 49 名) | 60 名 (66 名) |
| BORDER CAFÉ 神奈川県立大和東高校 | 28 回 (17 回) | 921 名/平均 32 名 (586 名/平均 35 名) | 68 名 (51 名) |
| 合計 | 42 回 (28 回) | 1201 名/平均 28 名 (1,123 名/平均 41 名) | 128 名 (117 名) |

(3) ボランティアさん養成講座：先生でも親でも支援者でもない、フラットな立ち位置で生徒と接していただくボランティアさんに、ミッションの理解や、引きこもり等の若者が置かれている実情（対処型支援）を知ること、校内居場所カフェ（予防型支援）の意義と価値をご理解いただき、コンプライアンスへの誓約をしていただく。

コロナによる影響：養成講座を開催しても、参加していただけるカフェの開催がコロナの蔓延状況によるため、開催を見合わせた。

ボランティアさん養成講座の振り返り

開催はしなかったものの、養成講座の開催を要望するお問い合わせを多くいただき、関心の高さを感じることもできた1年だった。また、成果としては全国のカフェ開催団体が、開始に当たっての研修を当法人に要請して下さり、養成講座テキストを使い、実施することができた点である。（石井）

- 一般社団法人ぐるーん（岡山県）
- 任意団体 A GNU（新潟県）
- NPO 法人ダイバーシティ工房/NPO 法人ハイティーンサポートちば（千葉県）
- 国立市公民館/学校法人 NHK 学園（東京都）
- 日本大学末富ゼミ（東京都）

2021 年度実績 () 内は前年度の実績

| | 開催数 | 参加数※自団体開催ではないため未カウント。 |
|-------------|----------|-----------------------|
| オンライン開催（新規） | 5 回（1 回） | 0 名（16 名） |
| リアル開催@大和社協 | 0 回（1 回） | 0 名（5 名） |
| 合計 | 5 回（2 回） | 0 名（21 名） |

(4) 個別相談事業～Drop-in～：カフェで早期発見した課題を、信託貯金を使いながらソーシャル・ワークへと発展させていく。教員が気づいてない世帯の課題や、発達障害等を発見し、学校や SC、SSW 等の専門職と共有することで、中退や進路未決定を予防するとともに、中退後のサポートを可能とする基盤作りを目的とした事業。年間 80 件程度の個別相談を実施。田奈高校は北部ユースプラザの出張相談事業に位置づけている。

個別相談事業～Drop-in～の振り返り

2020 年度の休校騒動を教訓に、2021 年度はコロナ感染状況に関わらず本事業は開催され続けた。これは学校側の本事業への評価でもあるとも言え、生徒とパノラマとの関係を切ってはならないという共通理解があったものと思われる。

本年度は、某 1 年生の気になるグループに対する相談が多く、時には集団で、時には個別に相談を設けながら、カフェでの伴奏支援も交え、グループの人間関係の危ういバランスを調整しながら、誰一人中退にならなかったことが成果だったように思う。この集団へのアプローチは開始当初からコンセプトとしていたが、漸く、意図を実現するような相談ができるようになった手応えがあった。

感慨深いのは、相談中に、先生が相談室に顔を出し「今、〇〇が教室に入れなくなっているんですが、一緒に相談に入れても大丈夫ですか？」と言ってグループ相談になったことである。このようにオルタナティブな教育相談の形が学校に浸透していくことは、私たちが目指していくことであるように思う。

2021 年度実績 () 内は前年度の実績

| | 開催数 | 相談件数 |
|--------------|-------------|-------------|
| 神奈川県立田奈高等学校 | 17 回 (12 回) | 40 名 (41 名) |
| 神奈川県立大和東高等学校 | 2 回 (0 回) | 3 名 (0 名) |
| 合計 | 19 回 (12 回) | 43 名 (41 名) |

(5) 入学前支援「ごぶごぶ」：合格発表から入学式までの間に、希望する中学3年生と保護者に対して、県内のカフェ・マスターや支援機関に参加してもらい、セミナー相談会を実施することで、高校進学への不安を解消し、入学前に当法人やカフェ・マスターとの信頼関係を築いた状態で入学式を迎えてもらい、中退・進路未決定者数の減少を目指すと共に、早期に不登校や中退になった場合に、学校以外の相談できる若者支援機関の存在を認識してもらう。

入学前支援「ごぶごぶ」振り返り

本年度、なかなか当事業へ手を回す余裕がなく、後手に回ってしまったというのが正直な振り返りであり反省である。ただ、高校や教育委員会へ、本企画を打診した際の戸惑いや賛同からは、本事業が潜在的に持つ、中学と高校の“途切れ”の問題を浮き彫りにした。戸惑いとは、中学、高校、教育委員会の三者がお見合い状態である未着手の空白状態であり、賛同とは、中学から入学前に十分な情報が引き継がれないことに対する高校側の危機感である。

次年度には、教育委員会や高校との十分な議論を経て、後援をいただき、正式に「ごぶごぶ」をスタートさせたい。尚、マスコット・キャラクターのごぶごぶ君を、田奈高校の卒業生かいぶつ(←アーティスト名)がデザインしてくれたので紹介させていただく。



ごぶごぶ君は、高校進学に期待と不安が五分五分の精神状態を表現した、狼の皮を被って強がる羊をイメージしています。てんごちゃんとは大の仲良しです。

(6) 中退者・卒業生支援：在学中に、カフェ等で信頼貯金を貯めていた生徒が、学校を離れてしまった後に、職場や家庭、人間関係等でのトラブルの発生により、パノラマに何らかの支援を求めたものに対応していく。

中退者・卒業生支援の振り返り

田奈高校に石井が入り11年が経ったこととも関係があるが、卒業後、数年経った若者からSOSの連絡が入ることが、多くはないが定期的に入っている。中には、こちらから定期的にアプローチし続けて、やっと返事が来たものなどもある。また、卒業と同時に伴走し続け、手帳取得から福祉サービスを利用している若者もいる。

これらの若者たちの特徴は、在学中から当法人の校内での個別相談支援等を利用し、なんらかの困難を抱えていた元生徒たちで、卒後に就労等をするものの、根本的な課題は解決していない者たちである。また、当法人の介入により、すべてが解決するような状況ではなく、目に見えない困難が絡まり合った複合的困難状態である場合が多く、つながり続け、励まし、支え続けることが大事な方たちであることがほとんどであるが、つながれているのはごく一部の卒業生のみである。

そのため、2021年の卒業式では、お守りのデザインをしたLINEアカウントのQRコードを入れたカードを、田奈高校と大和東高校の卒業式で配布していただいた。

2021年度実績 ()内は前年度の実績

| | 対応者数 |
|-----|----------|
| 中退生 | 0名(1名) |
| 卒業生 | 11名(14名) |
| 合計 | 11名(15名) |

2校の卒業式で配布されたお守りカード



2. サードプレイス提供事業

(1) 居場所居酒屋汽水： ゴール設定をしない非支援を掲げ、既存の発想の若者支援ではリーチできない、ひきこもり等の若者・中高年へ、居酒屋というフォーマットのサードプレイスを提供。支援者以外の地域の大人たちを巻き込み「役割のシャッフル」を起こすことで社会的孤立を防ぎ、QOL を上げることで自立可能性を高める。8050 問題等、中高年ひきこもり支援の新たな切り口としての可能性を模索する事業。

連携団体：NPO 法人スペースナナ

コロナによる影響：2020 年度 5 月より ZOOM を使い、パノラマ単独のオンライン開催に切り替え、毎月一回オンラインで開催している。オンライン開催が定着している。

サードプレイス提供事業の振り返り

所謂、オンライン飲み会疲れというか、飽きのようなものがあり、参加者は減少傾向であり、常連のために開催しているという感じになっている。しかし、グダグダとした常連がくだを巻くような飲み会ではなく、社会に出ようとしている若者の刻一刻と変化するテーマに対して、流動的な参加者からの心優しいアドバイスなどがもらえる、心地良いサードプレイスとしての機能を果たせているように思う。

また、継続した参加には繋がっていないが、40 代のひきこもり女性や、70 代のひきこもり女性、熊本から参加して下さった男性ひきこもり経験者などが時折参加している。店主である石井が、グループトークのファシリテーションの腕を上げる機会にもなっており、いつかこのスキルを発揮できればと思う。

居場所居酒屋「汽水」事業実績（ ）内は前度の実績

| | 開催数 | 参加数（スタッフ含む） |
|---------|-------------|--------------------------|
| リアル開催 | 0 回 (0 回) | 0 名 (0 名/平均 0 名) |
| オンライン開催 | 12 回 (11 回) | 51 名/平均 4 名(88 名/平均 8 名) |
| 合計 | 12 回 (11 回) | 51 名 (88 名) |

3. 若年者就労支援事業

(1) 有給職業体験バイターン：働くことに強い不安を抱え、アルバイトに就けない生徒や引きこもり等を経験した若者がいる。就職協定から切り離れた福祉的マッチングを必要としている生徒や、通常の履歴書/面接を経た就労が困難な若者が多くいる。このような生徒が、進路未決定から引きこもり等に陥るリスクが極めて高く、引きこもり等の若者たちの出口支援として就労支援がなければ、経済的自立状態に辿り着くことができない。“安心できる大人”のいるアルバイト先を紹介し、3日間の無給の職場体験を経て有給のアルバイトとなり、働くための基礎体力をつけ、一般の就職活動をしてもらうか、そのままアルバイト先での就職を目指すことを目的とした事業。

コロナによる影響：コロナ禍やウクライナ侵攻などによる業績不振の影響で、当初は柔軟な受け入れを検討していた企業が、厳しい判断をするようになったケースがあった。

有給職業体験バイターンの振り返り

北部ユースプラザの利用者の中でバイターンという仕組みが浸透し始め、前年度に体験した若者も多かったことから、挑戦へのハードルが下がり、参加に対して意欲的になった。また、前年度でバイターン採用をした企業が、他の企業を紹介していただき、採用に繋がったケースもあった（UASのトマト農園、でんぱた）。

緑法人会でのバイターン説明会を実施し、その後の多くの受け入れ表明をしていただけでなく、バイターンの動きに付随して、社会体験やボランティアの機会を提供してもらうことが増えた1年だった。

例：ミット打ち体験などの社会体験の提供、生活クラブのポスティング3回、バイターンについての取材元の森ノオトからは手芸ボランティアの紹介。

尚、現在無料職業紹介事業者資格の申請中である。

実施校：神奈川県立田奈高校、神奈川県立大和東高校

実施機関：よこはま北部ユースプラザ

連携団体：一般社団法人インクルージョンネットかながわ（無料職業紹介）

【2021 年度の実績】

| | 2020 年度 | 2021 年度 |
|---------------|--|--|
| 参加延べ人数 | 66 名 | 87 名（田奈高校 1 名含む） |
| 体験延べ回数 | 66 回 | 91 回 |
| 参加者数 | 12 名 内訳：採用 7 名、不採用 2 名 辞退 1 名、保留 2 名 | 12 名 内訳：採用 6 名、不採用 2 名 辞退 3 名、保留 1 名 |
| 採用者 | 7 名 内訳：就労継続中 6 名 他社 採用 1 名 | 6 名 内訳：就労継続中 5 名、中途退職 者 1 名 |
| 受け入れ 企業数 | 7 社 | 6 社 内訳：不動産業、農業、WEB 関係、 福祉事業所、飲食店、塗装業 |
| 新規・再発掘 企業数 | 1 社 | 4 社 内訳：ワールドジャーニー、UAS、 サンミラー、でんぱた |

【事例紹介】

- ・ 毎月継続的に有償ボランティアに足を運んでいた企業からアルバイト採用の仕事の紹介を受け、若者が一名採用となった。その若者は前職のブラック企業での鬱の発症とトラウマから再就労に対して強い不安感と猜疑心を抱いていたが、配慮と理解のある社員たちに受け入れられ、持ち前の手先の器用さも発揮してやりがいを持って働くことができるようになった。（嶮山開発）
- ・ 就労で仕事量が多く残業が続いて疲弊してしまった若者が、短時間のアルバイトと併用してバイターンを利用。少しずつ体を慣らしていきたい、ペースを作っていきたいとの希望から、緩やかに約半年の有償ボランティアを経て、正式にバイト採用となった。企業側が本人の意向を理解して了承してくださったことと、コロナ禍による業務減少もあったことから双方の状況がマッチしていた。（ホントノ SBC.）
- ・ 知的障害者の生活介助事業所で二名の若者が無給体験を行った。一名は適性と誠実な仕事ぶりが認められ、当事者性がやや強い若者ではあったが、長い目で育ててくださることになり、もう一名は、本人の課題や意欲不足が見られたことから不採用とはなったが、その後、当法人で保護者面談も行って WA I S 検査を受けることや手帳を取得し障害者就労を目指すなどの新たな方向性が見つかった。施設長から、支援職ならではの視点で丁寧なフィードバックをいただけたことが本人および今後の支援に対しての大きな糧となった。（でんぱた）

4. 若者自立支援事業

(1) よこはま北部ユースプラザ（横浜市補助事業）

不登校、ひきこもりなどの思春期・青年期の総合相談や自立に向けた若者の居場所の運営をするほか、地域で若者の支援活動を行っているNPO法人等の団体や区との連携を図り、地域に密着した活動を行うことを目的として、横浜市が設置し、NPO法人等が運営する施設です。対象は、都筑区、青葉区、港北区、緑区の北部エリア4区を中心に市内在住の15歳から39歳までの若者とそのご家族。常に5名体制で運営し、事業内容は横浜市の仕様則った以下に加え、独自にバイターンや、高校への出張相談事業を加えている。

- 総合相談（電話相談、来所相談、家庭訪問等）
- 区役所におけるひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談の実施
- ひきこもりからの回復期にある若者の居場所の運営
- 社会体験・就労体験のプログラムの実施
- 地域の関係支援機関、区役所との連携及び地域ネットワークづくり
- 応援パートナーの養成・派遣

コロナによる影響：2021年度は、前年度の再開後同様、居場所のソーシャル・ディスタンスを保つために、定員を10名とし、利用者が10名を超えた場合は、入り口フロアやキッチンに移動してもらっている。また、1週間の利用を3日に制限している。

よこはま北部ユースプラザ振り返り（施設長：織田鉄也）～別紙参照～



北部ユースプラザのマスコットキャラクター

プラねこちゃんとゆうすくん

よこはま北部ユースプラザ実績

| | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 |
|------------------------------|-------------------------------------|--|--|
| 開所日数 | 274 日 | 275 日 ※コロナ対応 で4月1日から7月9 日まで居場所は休止 | 283 日 |
| 利用者数（本 人・保護者・関 係機関を含む） | 延べ 4,458 名 | 延べ 2,865 名 | 延べ 3,895 名 |
| 新規来所者（見 学・保護者のみ 含む） | 85 名 | 92 名（本人性別：男 63 名、女 29 名）うち 60 名が新規登録 | 79 名（本人性別：男 27 名、女 52 名）うち 34 名 が新規登録 |
| 応援パートナ ー登録数 | 延べ 23 名（個人登 録 11 名、団体登録 2 団体） | 延べ 28 名（個人 16 名、団体 2）うち新規： 個人登録 5 名 | 延べ名 31 名（個人登録 29 名、団体登録 2） うち新規：個人登録 13 名 |
| 応援パートナ ー実施回数 | 29 回 | 12 回 | 24 回 |

5.中高年ひきこもり支援事業「ブリッチ」

（1）オンラインによる会話サービス「ブリッチ」

人と会う負担が少ないオンライン・コミュニケーション・ツール ZOOM を使い、ひきこもり支援の専門家が、遠くの友人のような関係性を継続的に提供し、ご自宅での「生活の質」の向上をサポートすることで、次の一歩への橋渡しをゆるやかにアシストする 40 歳以上のひきこもり者に対する実験的な支援事業。本事業は、クライアントと以下の 3 つの約束をして行う。①人に会うこと、働くことを強要しない。②相談を強要したり、家には行かない。③あなたらしくいることを尊重する。

| | 2021 年度 | 2022 年度 | 2023 年度 |
|----------|---------|---------|---------|
| 保護者等相談 | 2 件 | | |
| 利用者数 | 0 人 | | |
| オンライン会話数 | 0 回 | | |

オンラインによる会話サービス「ブリッチ」振り返り

事業開始の初年度は、どのようになるかわからないまま、当事者への情報提供よりも、当事者の保護者を支援する高齢者支援者への情報提供の1年とし、主に横浜市すべての地域ケアプラザ及び社会福祉協議会や、お問い合わせのあった支援機関への送付を行った。チラシ内には、支援者用に保護者への促しマニュアルを入れた。

実績にあげた2件の相談は、地域ケアプラザからのリファーとおそらくチラシを見てのお申し込みであり、どちらも本人のきょうだいからのものであり、保護者からではなかった。また、いずれも保護者の病状悪化に伴うものであり、保護者がイニシアチブを取れなくなったあとの支援開始となっている点が、8050問題を浮き彫りにしているように感じている。

付随事業「40歳以上のひきこもり支援の実施状況調査」

横浜市青葉区生活支援課からの委託事業として、全国の支援機関にアンケート調査を行い、39団体からの回答を得て、5団体と藤沢市、野洲市、座間市への行政担当者へのヒアリングを実施しました。これにより、当法人のリテラシーの向上やネットワーキングが果たせたと思います。また、どこもこれといった方法論や支援ノウハウを獲得しているわけではなく、行政が本腰を入れ始めたここから、自分たちが得てきた手応えを実践していこうという段階であることがわかった。

6. 啓発事業

(1) 校内居場所カフェ・スタッフ養成講座事業

「校内居場所カフェ運営者・実施者人材育成の事業」（継続2年目）

2020年度より「大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金」による、「校内居場所カフェ・スタッフ育成事業」に取り組んでいるが、継続申請が通り2年目となる。他団体カフェへのヒアリングや視察から、テキストの作成を目指す。

校内居場所カフェ・スタッフ養成講座事業の振り返り

2年目の成果としては、『カフェのできる学校、できない学校』の副読本の販売開始である。この本は、普段あまり言語化されることの少ない、校内居場所カフェを開催する学校側の先生たちの話を中心に、2019年9月に「ぴっかりカフェの作り方~カフェができる学校、できない学校~」というテーマで語り合っていた、シンポジウムを元に作成したものです。

これからカフェを始めたい教育/支援関係者の皆さまにとって、学校・教員理解が進む一助となるテキストになっています。尚、本編である『校内居場所カフェ・スタッフ養成講座~基礎知識編~』の執筆を概ね完了している。本執筆を通して、改めて、校内

居場所カフェの素晴らしさや可能性を言語化することができていると手応えを感じている。



←お買い求めはこちらから (500 円)

(2) 各種広報事業

「すべての人をフレームイン!」というミッション・ヴォイスに基づき、パノラマの活動や実践を言語化し、広く発信することで、私たちが課題と感じていることを社会課題として認識を広げ、ファンの獲得や行政へのアドボカシー等、幅広く支援の輪を広げていくことを目的とした事業。

眺望通信

パノラマの活動を寄付者や応援者の皆さまに全体像をお伝えするニュース・レター「眺望通信」(愛称:ちょぼつー)の配信を6月末から開始しました。2021年度の発行実績は、Vol.1~Vol.7までとなり、スタッフの負担になり過ぎない範囲で、不定期に発信しています。



※定款第5条(2)その他の事業の実施なし

以上